令和4年度教育目標に対する自己評価　　副園長　宇田智嘉

①モンテッソーリ教育を取り入れた教育に対する自己評価

☆今年度は、各学年の年間の取り組みとは別に、各教員が自分が子どもと取り組んでみたい教具を自分で研究し、子どもに提示した。それぞれの成果がみられている。

≪年長≫

・文字の取り組みにおいて、書くことだけでなく、封筒パズルや移動五十音の教具を使い、主語述語の文の組立てや単語集めなど、読む事の基礎を子どもに伝えられた。

・数に興味を持つクラスにおいて、切手遊びという足し算の仕組みを学べる教具に触れる事ができた。子どもの知的好奇心が育っている事を感じた。

・着衣枠の蝶結びに取り組み、蝶結びの仕組みを教具で子どもに提示できた。挑戦する子どもが多く、蝶結びができるようになった子どもが増えた事が教員の喜びにもつながった。

・今後も新しい教具を取り入れていきたい。

≪年中≫

・幾何学立体に触れ、様々な形の特徴を視覚、聴覚、触覚から学ぶ事ができた。感覚教育のおもしろさを感じている。子どもの実態に合わせて、発展させていきたい。

・鉄製はめこみの教具に取り組んだ子どもたちは、鉛筆の持ち方、鉛筆の運び、筆圧に変化が見えた。

・教具の取り組みの積み重ねで、主体的に集中して取り組む姿が見られている。

・今後は、子どもたちに、よりよい環境を提供するために、教員の取り組む姿勢を統一していきたい。

≪年少≫

・日常生活の訓練につながる教具で、主体的に活動に取り組めるようになったが、発展がない物もあるため、子どもの実態に合わせて見直し発展させる必要があると感じる。

・文字の取り組みにおいて、砂文字板の教具と言葉集めに興味が持つようになった。語彙が増えた。

・幾何学立体の教具に触れるにあたり、教員の提示の方法を共通理解する必要があった。教員間で学び合う姿勢をこれからも大切にしていきたい。

≪2歳≫

・日常生活の訓練につながる教具を積極的に取り入れるようにした。特に箸や、着衣枠のボタンを使う教具では、繰り返し取り組んだ事が成果につながった。

・布をたたむ教具が、服をのばすことやたたむことにつながっていることを感じる。

・教員の提示の仕方によって、子どもへの伝わり方が変わっていくので、ゆっくりと丁寧に示すことを意識した。

・発達年齢に合った物が提供できているかを月ごとに見直し、扱いにも気を配った。

②食育の取り組みに対する自己評価

≪年長≫

・給食で使用されている食材に目を向け、食材によって身体に良い働きがあることを学べるようにした。免疫力を上げる食材を知る機会となった。

・野菜を育て、収穫の喜びを分かち合い、野菜を好きになった子どもがいる。

・献立を見て、焼く、煮る、揚げるなど調理に興味を持つようになった。

≪年中≫

・食べ物の栄養について考え、病気にならない身体を作るための力になっていることを学べた。苦手なものも食べられるようになった子どもが増えた。

・食事のマナーの取り組みを家庭と連携して取り組めた。食べこぼしが減っている。

・箸の持ち方や姿勢については、今後も個別に指導していきたい。

≪年少≫

・給食の献立の中で、どのような食材が使われているかを毎日表示している。どの食材がどのような栄養があるかを考えるようにしている。食材に興味が持てるようになった。

・自分たちで育てた野菜に触れたり、においをかいだりする機会を作り、育てる事の楽しさを感じた。

・嫌いなもの苦手なものを一口でも食べられるようになった。

・箸の正しい持ち方について、家庭と連携して取り組んでいきたい。

≪２歳≫

・給食を食べたら、“力が出る”“大きくなる”“病気にならない”ことを伝えてきた。

・食の知識や食の経験が浅いため、給食に使われている食材について、毎日話している。とうふやかまぼこが何からできているかを伝えることができた。

・今後も、姿勢や箸の使い方を個別に伝えるようにしたい。

③心の教育に対する評価

≪年長≫

・一人一人の様子や表情に気を配り、心の動きを見るようにしてきた。行事の取り組み中は、特に配慮が必要な事もあった。

・友だち同士の良いところを認め合う姿が見られるようになり、話し合いができるようになった。

≪年中≫

・一人一人の思いが出せているか、安心して過ごせているかを常に気にとめている。場面によって上手く気持ちが伝えられない子どももいるので配慮している。

・活動の振り返りの中で、友だちへの感謝や認め合う言葉が、子どもから出るようになった。

≪年少≫

・友だちの手伝いや当番の仕事を主体的に取り組むようになり、人のためにできることが喜びにつながっている。

・思いが言葉にできない子どもには、思いをくみ取り、言葉にして寄り添うようにしている。

≪２歳≫

・常に心の動きに気を配り、子どもの背景にあるものも受け入れるようにしてきた。

・遊びの中で、譲り合ったり、順番を守ったりできるようになった。良い行いを認めてほめる。

令和4年度　学校関係者評価記入シート

学校法人クラレット学院　認定こども園あけのほし幼稚園
評価実施日：令和　5年　3月

関係者評価委員	令和4年度保護者会役員　茶本　勝善　　吉田　恵 学校法人評議員　　市井　博子
作成者	法人職員　片岡　　実

① 自己評価について（取組・達成状況、課題設定の適切さなど）

総論

・日々細かなところにも気を配り、子ども一人一人を大切にしている。その姿勢が子どもたちにも伝わり、子どもの成長にいい影響を与えていることがよくわかる。

・すべての子どもが、園のすべての人に安心して接することができること。これが「幼稚園大好き」への第1歩です。今後も継続してほしい。

① モンテッソリー教育を取り入れた教育に対する評価

・まず子どもに興味を持たせ、その上一人一人の状況にあわせ様々な教具を取り入れ発展させる取り組みはすばらしく評価できる。

・教具に頼りすぎて、子どもに「迷ったり、思考したりする」能力の発達を妨げないよう配慮も忘れないでほしい。

・各先生で取り組まれた教具は、先生方で共有し、進級しても引き続き触れることができるようにしてほしい。

② 食育の取り組みに対する評価。

・自分たちで野菜を育てることで、育てる楽しさ難しさを感じることができ、食事への感謝の気持ちを持てるようになった。

・食育は、家庭での取り組みとも連携し、保護者の理解も深めてほしい。

③ 心の教育に対する評価

・先生方が一人一人の子どもたちに合わせた声掛けをしている、子どもに寄り添う姿勢は評価できる。

・どの先生も、子どもたちの喜びをわがことのように喜ぶ心がすばらしい。

④　その他、園に対するご意見・ご提案等ございましたらお聞かせください

・園行事など制限が続くなかでも、子どもが喜んで園に通えた一年だった。

・保護者アンケートの、事務所の事務処理や保護者への対応の評価は気になるが、園からの情報発信は、SNSを活用しスムーズになっている。